

「女性による元気な地域づくり応援講座」カリキュラム開発のガイドライン

(別紙1)

※ 地域活動の実践力を高めるカリキュラムとする

目的	プロセス	内容	例
●実行委員会で検討すること			
地域の進みたい方向や問題を理解する	地域を知る	市町村の総合戦略を知る 地方創生と女性活躍との関連を知る 首長や、市町村の他の部門を巻き込む	・市町村の総合戦略の勉強会を実施する ・首長に挨拶をお願いし、講座の見学や、参加を依頼する ・市町村のまちづくり・防災・社会教育等の地域との協働を担う部署に対しても協力を依頼する (講座の見学、実行委員や塾生としての参加など)
地域の課題・問題を発見する	課題を設定する	地域課題の捉え方を学ぶ 参加者募集にあたって、課題を明らかにする 活動するテーマを設定する	・「やりたいこと」が地域課題とリンクしているか、アンケートやヒアリング調査で検証する ・地域の「良いトコ」や「良いモノ」(人的資源、観光資源、産業など)から地域課題をとらえる (過去のテーマ)まちの活性化、人材発掘、防災、まちの魅力発見、不登校支援
	ターゲットを絞る	「次代の地域の担い手」とするターゲットを絞る 効果的な広報戦略を立てる	・30代、40代の女性で、自分や地域のために起業したいと思っている人 ・防災に興味があり、地域でこれから活動を始めたいと考えている子育て世代の女性 ・伝統工芸や農業まで含めた広い意味でのモノづくりに関心があり、同じような立場の方とのつながりを求めている女性
	地域資源を発掘する	ロールモデル、アドバイザー、講師などを探す ふくおか女性いきいき塾卒塾生を巻き込む	・ふくおか女性いきいき塾の卒塾生に、実行委員やアドバイザーになってもらう ・地域おこし協力隊を巻き込む ・地域で活動しているロールモデルから学ぶ
課題の解決策を考える	活動を継続する方法を考える	ネットワークづくりのしかけを考える 講座期間中、終了後のフォローアップ方法を考える 市民協働事業の助成金活用等、財源を検討する	・SNSを利用し、情報交換・収集ができるようプラットフォームを作る ・行政とのタイアップでコワーキングスペースをオープンし、活動を継続する場を作る ・市のホームページに「まちの魅力」発信のチャンネルを作り情報発信を継続する
発表・ふりかえり	事業報告会とふりかえり	実行委員会で活動を振り返る 事業全体の報告を行う	・振り返りを記録に残す(うまくいったこと・うまくいかなかったことの要因と改善点など) ・各地域においての報告会や首長への提言など ・元気塾報告会
●参加者(塾生)が取り組むこと			
地域の進みたい方向や問題を理解する	講座の趣旨の理解	実行委員会から、講座の趣旨を伝える	・初回の実行委員長挨拶に盛り込む ・首長など来賓挨拶で市町村が関心を持っている事業であることを伝える
	地域における男女共同参画の基本	男女共同参画の基本を知る (歴史的な背景、世界・日本・市町村の動き、実現に向けての喫緊の課題、性別役割分担意識など)	・目的・テーマにあった講師を招いて、講演、講習会、ワークショップなどで学ぶ ・あすばるセンター長による男女共同参画基礎講座を受講する
	チームビルディング	チームの環境を整える 参加者同士、参加者と実行委員会の信頼関係を築く	・講座の日程とは別日に復習ができる日を設定する ・Zoom(ズーム)等を利用したインターネット会議を行う ・欠席者のために講座の様子を動画撮影しYouTube(ユーチューブ)で限定公開する ・講座終了後ランチや茶話会など交流の時間を取ってコミュニケーションを図る
地域の課題・問題を発見する	課題を設定する	実行委員会で設定した、テーマや課題を自分ごとにする	・ブレインストーミングとKJ法を用いて課題を整理する ・グループワークや実態調査を塾生主体で行う ・アドバイザーに旗振りをしてもらう
	問題解決技法を学ぶ	問題の本質、全体像を把握する コミュニケーション力(傾聴力、質問力、可視化する力など)	・問題解決のフレームワークを使い実践に落とし込む ・コミュニケーションスキルを学ぶ研修を行う ・ファシリテーション(会議進行)術を学ぶ
	地域資源を発掘する	現地視察、インタビュー 市町村のロールモデルの話聴く 連携先を探す	・現地フィールドワーク ・地元観光地を知るツアー ・生産者へのインタビュー ・商店街や地域おこし協力隊とのコラボ
課題の解決策を考える	課題解決のアイデアを出す	アイデアの出し方、纏め方の手法を学ぶ アイデアを出す、話し合う 課題解決した未来を想像する(未来新聞、シナリオ作り)	・講座の前後に企画会議を実施する ・ブレインストーミングとKJ法を用いてアイデアをまとめる ・会議の場だけでなく、Slack(スラック)やLINE(ライン)などのツールを使い、いつでもアイデアが出せるようにする
	実現方法を考える	課題の解決策のプロトタイプを考える アドバイザーなどから意見をもらい、ブラッシュアップする	・グループごとに地域課題解決のプログラムを作成し、中間発表でほかのグループやアドバイザーに意見をもらう ・中間発表会を公開講座で実施し、一般の参加者から意見をもらう ・行政の担当課や連携先にプレゼンし、意見をもらう
	お試しチャレンジ	プロトタイプ(試作モデル)を施行、実際にやってみる 施行した結果を検証する	・地域の魅力を紹介するガイドブックや動画配信のプラットフォームを作成 ・マルシェの開催 ・防災マニュアルの作成や防災食品のプロデュース ・産品のプロデュース
発表・ふりかえり	報告会とふりかえり	活動発表・成果報告を行う 市町村への提言を行う チーム活動を振り返る	・首長へプレゼンテーション ・成果報告会(首長へ案内) ・最終講座を公開講座にし首長や参加者に活動報告をする

4回〜6回程度の講座で実施する